

倭文庫二拾六編

万亭應賀作

弁意曲

上

~ 13
3785
51



門へ13
3785
51
巻

倭文庫二拾
六編上之卷

應賀作

國貞画

丑之春
新梓行
錦重堂版

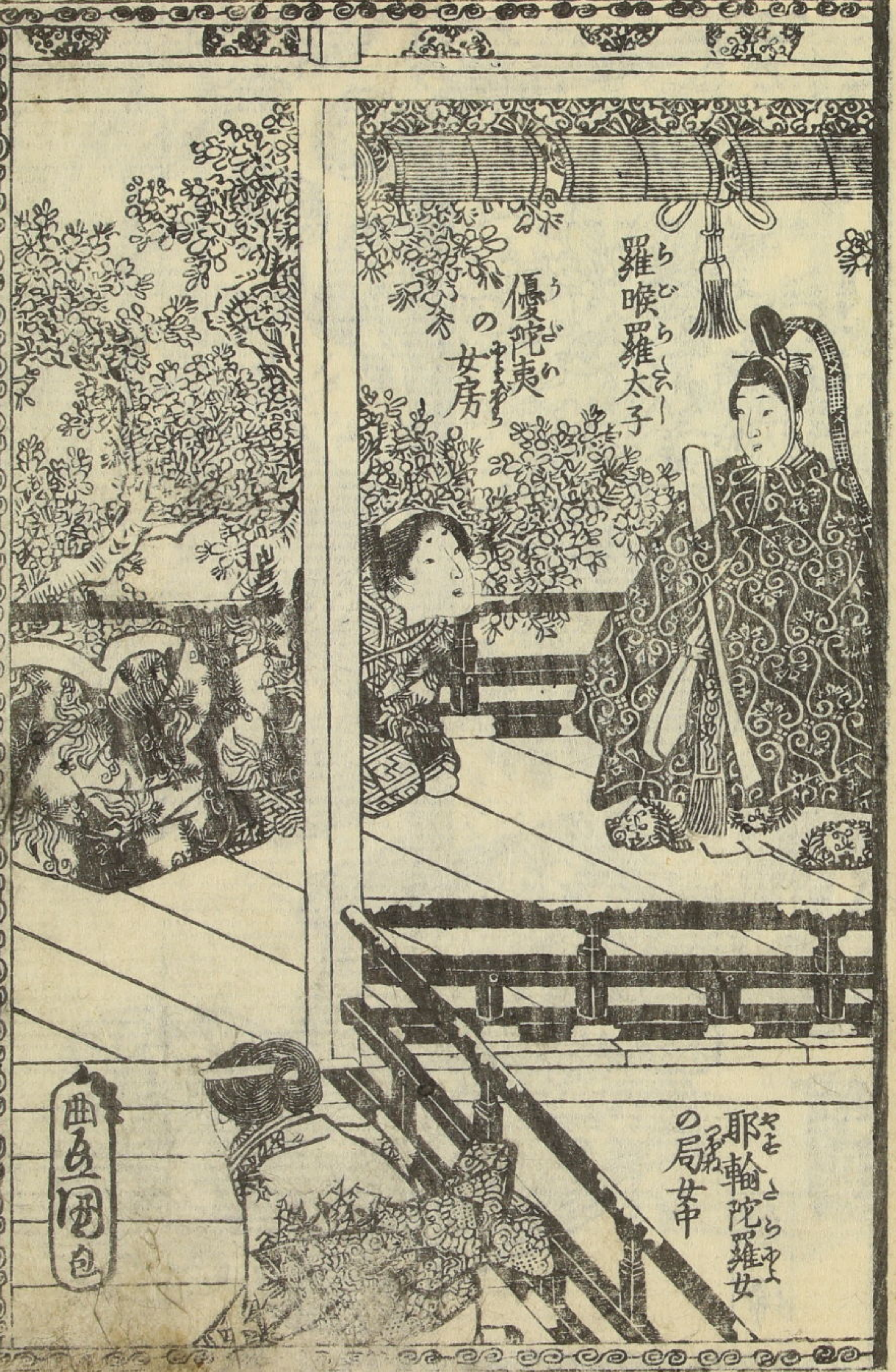
釋迦八相倭文庫二拾六編序

或人予小問て曰く此冊子の釈迦八相と題し多う如末の傳記の大遠く又年月合ふ
 ところもあり又六編の序の始に却説とす如何なる事か予答て曰く三事比管理あり我
 等似これともその細沢を以て世に如末の傳記山々あり十部書といふ十種の説あり何
 採て可とせん其の教經の説を拾著して原より大人の園あり假名手小巻の遠くとい
 へば其の書あり其の編不限るが如く年月を正さんとされ前後の書離て童蒙の元
 年思はれれば其の場もあつて先と操揚一編の中結とあり縦令一編の草紙のうちに太
 子無粹に多し他人のあつた野生るが如く拙き本とて序文も実と入居る向
 多れば傍客の系随せ或の備書の筆勢も任事ともあれ其らの意念の余り
 笑ふ人の笑ふも子孫に又その人を笑ふ後ともそれ等のと改めてある所力あると強情
 述て厭ふる看官方もその意して山鏡をされてくべきか

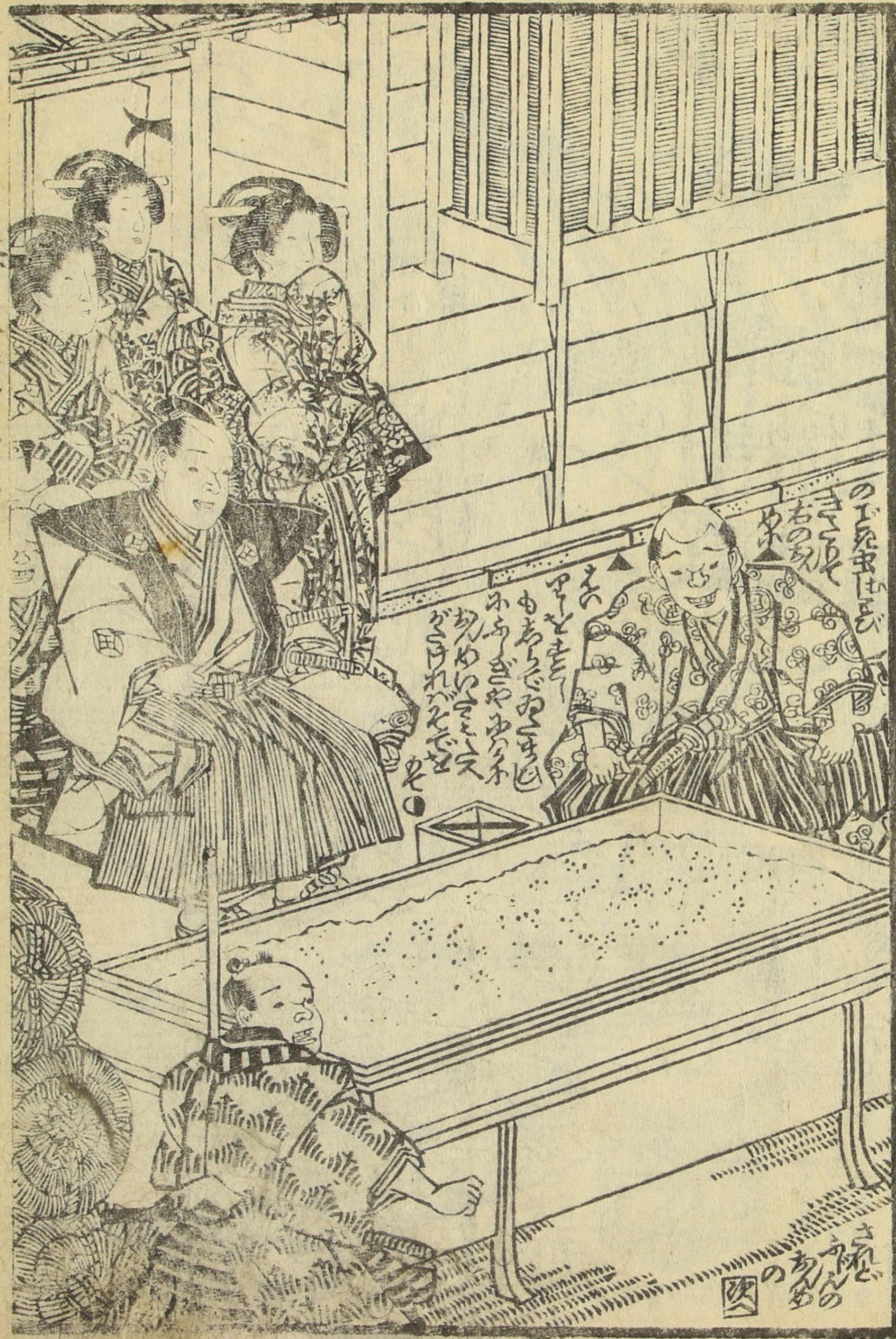
嘉永六癸丑年孟限開市

万亭應加貝誌

大正十一年







玉の影はこれぞおののこ
 玉の影はこれぞおののこ
 玉の影はこれぞおののこ
 玉の影はこれぞおののこ







備文庫十一





ふせんとむる

のりもろくが在將
軍のやびり
きりて下らん
そのあれをわりの
あふれをてまを
まうまへて
かむまへて
ち子のあはれを
あふれをてまを
かむまへて
そのあはれを
あふれをてまを
かむまへて



れその
あふれを
かむまへて
そのあはれを
あふれをてまを
かむまへて
そのあはれを
あふれをてまを
かむまへて

あふれを
かむまへて
そのあはれを
あふれをてまを
かむまへて
そのあはれを
あふれをてまを
かむまへて

嘉永六癸丑春新本版目録

高祖朝日衣 一名日蓮記 二編 同 勇齋國芳作	茶番案文 二編 同 萬亭應賀作	花山吹百人女郎 初編 一陽齋種彦作	譚柄瑠璃舞 三編 一陽齋國芳作	重井菱染別小紋 三編 一陽齋豐國作	赤松譚 八編 同 如淵外史作	神代もい草 三編 同 圓齋國磨作	倭文庫 廿四編ヨリ廿七編迄 為年出仕 一陽齋應賀作
------------------------------------	--------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------	------------------------------------



應賀作國貞画

倭文庫二冊

此の書は、嘉永六年癸丑の春、新本版目録に載せられたる、
 高祖朝日衣、茶番案文、花山吹百人女郎、譚柄瑠璃舞、
 重井菱染別小紋、赤松譚、神代もい草、倭文庫、
 此の七冊は、萬亭應賀の筆によるものである。
 萬亭は、嘉永六年癸丑の春、新本版目録に載せられたる、
 高祖朝日衣、茶番案文、花山吹百人女郎、譚柄瑠璃舞、
 重井菱染別小紋、赤松譚、神代もい草、倭文庫、
 此の七冊は、萬亭應賀の筆によるものである。

此の書は、嘉永六年癸丑の春、新本版目録に載せられたる、
 高祖朝日衣、茶番案文、花山吹百人女郎、譚柄瑠璃舞、
 重井菱染別小紋、赤松譚、神代もい草、倭文庫、
 此の七冊は、萬亭應賀の筆によるものである。
 萬亭は、嘉永六年癸丑の春、新本版目録に載せられたる、
 高祖朝日衣、茶番案文、花山吹百人女郎、譚柄瑠璃舞、
 重井菱染別小紋、赤松譚、神代もい草、倭文庫、
 此の七冊は、萬亭應賀の筆によるものである。

